

# 第一言語（国語）教育のライティングにおける ポートフォリオについて

北 條 礼 子\*

（平成14年4月30日受付；平成14年6月18日受理）

## 要 旨

ポートフォリオは評価法としてばかりでなく教授ツールとして注目を集めている。本論では、ポートフォリオとは何かについて簡潔に説明し、次にポートフォリオとライティングについて触れ、さらに欧米の国語教育（第一言語）におけるポートフォリオと国内の国語教育におけるポートフォリオについて述べ、最後に国内の総合的学習での国語におけるポートフォリオ学習実施の可能性について触れた。

## KEY WORDS

ポートフォリオ Portfolio

ライティング Writing

国語科教育 Japanese Language Education

語学教育 Language Education

## 1. ポートフォリオ

もともとポートフォリオとは、ラテン語で「運ぶ」を意味する *portare* と「葉（紙）」を意味する *folium* が組み合わされてできた「紙を運ぶもの」を表すことばである。この意味からも推測できるように、もともと画用紙などを入れて持ち運ぶ際に使用する厚紙でできた「紙ばさみ」を指すことばであったが、その意味が転じて、紙ばさみなどに入れた「作品集」のことも、ポートフォリオと呼ぶようになったという（余田，2001）。

余田（2001）によれば、ポートフォリオを学習や評価に役立てようとする試みは、欧米において1980年頃から始まった。

峯石（2001）はポートフォリオの本質的な共通点を示すものとして、Danielson and Abrutyn（1997）の考えをまず紹介している。それは以下の3点である。

- ①ポートフォリオが、学習者の学習資料を「収集」したものである点 (collection)
- ②収集資料はランダムにではなく目的を持って行われ、適切なエントリーが「選択」される点 (selection)
- ③たいていの場合、学習者が資料に基づき「内省」を行う点 (reflection)

峯石（2001）は、以上の3点をあげた上で、ポートフォリオを「学習者がある領域・プログラムにおける進歩の度合いを自己評価するために収集する学習資料」とであると定義している。

ポートフォリオは目的を持って系統的に資料が収集されれば、教授と評価の両面に有効であることが指摘されている。しかし、ポートフォリオの価値は目的の明確さ、収集資料のための

---

\* 学習臨床講座

ガイドライン、ポートフォリオ評価のための基準次第であることも同時に述べられている (Linn and Gronlund, 2000)。

次にポートフォリオの分類であるが、村川 (2001) は次のようにポートフォリオを分類している。

表1：ポートフォリオの類型 (村川, 2001, p.39)

分類の視点	分 類 例
目的	プレゼンテーション, 記録, 伝統的評価遂行, プロジェクトの過程記述
作成の主体	児童・生徒, 教師, 管理職, 教員志望学生
フォーマット	ファイル, ボックス, コンピュータなど
対象領域	各教科, 総合 (的な) 学習
基準と規準	量的, 質的

さらに村川 (2001) は, ポートフォリオに関する分類の中で最も基本的なものは, ポートフォリオの作成の目的による分類であろうと述べている。峯石 (2001) も Danielson and Abrutyn (1997) を参考にしながら, ポートフォリオを目的別に以下の3種類に分類している。

- ① working portfolios : これは process portfolios と呼ばれるが, その目的は学習資料の保管である。
- ② display, showcase, or best works portfolios : これは product portfolios と呼ばれるが, 各学習者が自己最高傑作を収めるポートフォリオである。
- ③ assessment portfolios : この目的はある特定のカリキュラムの学習成果に関する学習者の到達度を記録することである。

ポートフォリオは国内では総合的な学習の評価手段として近年注目されるようになっているが, 表1にも示されているように, 総合的な学習に限らず各教科においても有効な教授あるいは評価ツールであると考えられる。

しかし, Linn and Gronlund (2000) はポートフォリオの実践を困難にする弱点として4点をあげている。その4点とは, ①学習者にとって, 時間がかかる作業が続く, ②教師にとっても時間がかかる, ③評定の信頼性が比較的低い傾向にある, ④ポートフォリオは容易に作成できるという安易な認識を持ってしまう傾向がある, というものである。さらに Linn and Gronlund (2000) によれば, この4つの弱点を克服するための共通の対処法は, ポートフォリオの目的を明確に述べ, さらにポートフォリオ作成のための明確なガイドラインを提示することである。

また Linn and Gronlund (2000) は, ガイドラインは極端に強制するのではなく学習者が何を期待されているのかについて学習者が理解できるように十分配慮することと, ガイドラインはポートフォリオの目的や教師が掲げる学習目標に基づくべきであることを主張している。Genesee and Upshur (1996) は, ガイドラインにおいてポートフォリオが積極的, 相互交流的に用いられることを保証すべきであることと, 授業の中でポートフォリオをどのように協同で実践するのかについて学習者と予め協議することが不可欠であることを指摘している。

## 2. ポートフォリオとライティング

アメリカではヴァーモント州とミネソタ州の2つの州がポートフォリオの先進州といわれている。この2州は産業界の意向をかなり受容していることが指摘されている。この2州でポートフォリオがどのように推移してきたかについて小田（1999）が報告していることをまとめると次のようになる。

### 2.1 ヴァーモント州

まずヴァーモント州であるが、この州はアメリカ合衆国の中でも特に進取の気性の強い州である。1990年代に入ると、同州の教育庁が「学校に望むこと」を産業界の代表約200名を対象に調査し、その結果「コミュニケーション能力」と「論理的思考・問題解決能力」であることがわかった。そのうち前者の「コミュニケーション能力」では読む、書く、話す、聞くという4技能のうちで、特に書く力が重視されることになった。それは、産業界では品質管理業務において、問題を把握・分析し、改善をすすめる際に文書作成能力が欠かせないからであった。以上の結果から、ヴァーモント州のポートフォリオ学習の方向性が決定され、算数とライティングの指導と評価において、ポートフォリオが使用されることになった。

次に、ヴァーモント方式の「文章を書く能力を育成する国語ポートフォリオ」についてであるが、同州では小学生レベル（第4学年）、中学生レベル（第8学年）、高校生レベル（第10学年）において州のすべての生徒は州の教育庁が行う択一テストを受ける他に、実際に文章を書き、レベル1からレベル4までの4段階で評価されている。

ここで、書く文章の種類（分類）は以下の6種類である。

- ①説明文
- ②文学作品の論評
- ③ナレーション
- ④プロセスの描写文
- ⑤説得的な文（賛否両論が考えられるテーマで自分の考えを立論すること）
- ⑥個人的エッセイ

さらに、書いたものを基に、次の5つの観点からコミュニケーション能力が判断されるが、評価の観点は予め学習者に示され、学習者はこの5つの観点が重要であることを事前に理解することになる。

- ①目的は達せられているか。

ここでの目的とは、説明文でメカニズムや概念を分かり易く解説することであり、意見を述べる文章では、その根拠や立論が充足しているかどうか問われる。

- ②構成（導入と要約があるか。）
- ③十分なディテール（細部）があるか。（あるいは細部が丁寧に積み上げられているか。）
- ④トーンはふさわしいか。

ここでのトーンとは、たとえば、解説文を書くために口語や俗語を使わないということや、個人的なエッセイなどを書くときには堅苦しい言葉を使わないことなどである。

- ⑤文法は正しいか。

なお、ポートフォリオの主な問題点として、評定者の主観や個人差という評定の信頼性の問題が指摘されている。しかし、ヴァーモント州では評定の練習のための実際の答案集と評定の詳細な根拠の説明から成る出版物を各校に常備し、同州の教育庁は毎年夏に1週間の研修会を実施しているという。

ヴァーモント州では、この算数（数学）とライティングの2科目のポートフォリオ学習を完成させようとしているが、他教科のポートフォリオ学習のプログラムは現時点では未完成だということである。

## 2.2 ミネソタ州

次にミネソタ州であるが、この州も州内の産業界の要請を教育界に反映させようとしている。州内にはいくつかの大企業があり、ここからの州政府への法人税はミネソタ教育庁予算の一部をなしているという。ミネソタ州が中西部で教育州として際立っているのは、このような背景がある。

同州は2001年の卒業生からその卒業要件として、プロファイル・オブ・ラーニングという一種の科目横断学習が課せられる。対象は小学生から高校生までである。この学習には以下に示す10本の柱があり、各校がさまざまな課題学習を考案する。

- ①複雑な内容の文章を読むことができ、分析できる。
- ②効果的な文章を書くことができる。
- ③美術や音楽を創作・実演でき、解釈できる。
- ④数学を応用することによって、問題を解決できる。
- ⑤調べ学習が実践できて、結果を相手に伝えることができる。
- ⑥科学的な概念を理解し、応用できる。
- ⑦文化の交流を理解できる。
- ⑧データを活用できる。
- ⑨家庭・地域社会のなかの資源をうまく活用できる。
- ⑩外国語を用いて交流することができる。

以上のうち、①②③⑤は「コミュニケーション能力」にあたり、④⑥は「論理的思考・問題解決能力」であり、ミネソタ州の科目横断学習は、この2つの期間能力を細分化したもののだとも考えられる。

この科目横断学習の特徴として、「読む・書く・話す」力を伸ばすのに従来の国語の枠にとらわれる必要はないこと、つまり理科や社会科の領域から題材を選び、分析したり調べた結果をレポートにまとめるという形で、学習者に書く力を身につけさせようとすることがあげられる。

## 2.3 ライティング能力の測定

小田（1999）によれば、アメリカの教育界が従来の択一式テストから離れて、学習者の考える能力や表現能力を記述式テストで測定しようとする傾向があるということである。小学校、中学校レベルでは「ニュー・スタンダード」という記述式テストが、高校レベルでは「ペースセッター」という記述式テストが考案されている。

### 2.3.1 ニュー・スタンダードについて

ニュー・スタンダード記述式テストの国語では、制限時間を設けて文章作成が要求されている。

論文は、①約1000語の長文を読んで設問に答えるタイプと、②課題について自由に論述するタイプに分かれている。①はさらに1) 要旨を述べる、2) 視点について分析する、3) 作中の人物のキャラクターについて述べる、4) 長文から人間関係を想像するの4つに細分化されている。②は、ポートフォリオ学習時と同様に、1) 考え方を明確に述べる、2) 考えをわかりやすく構成すること、3) 言葉の選択の的確さ、4) 文法・語法上の正確さの4つの評点規準が示されている。

なお、評点は次の4段階である。

スタンダードを上回る (Exceeds the Standard)

到達している (Accomplished)

基礎的 (Basic)

不足している (Limited)

### 2.3.2 ペースセッターについて

ペースセッターは、Wolfによって考案された。Wolfは、1995年以降、高校生の読み書き能力を高め、能力を測定する方法を企画し、試行を重ねてきた。1998年には、高校レベルで「リテラシー・ポートフォリオ」というポートフォリオ学習が実施された。この授業で生徒は、文学作品の読み方、分析のしかたを学び、自分の選んだ作品を基に約1000語のレポートを書くことを要求される。このレポートはポートフォリオと呼ばれている。解答用紙のはじめに、ポートフォリオ学習の大原則となっている「評点の基準」として1) 文学作品をどれだけ把握したか、2) 文学作品をどれだけ総合的に解釈したかが明示されている。この評点の基準は次のようにさらに細分化されている。

#### 1) 文学作品をどれだけ把握したか

- ①自分の視点で論じているか
- ②十分に展開されているか
- ③テクニカルな点はどうか
- ④自分の考えを自分で再吟味にしているか

#### 2) 文学作品をどれだけ総合的に解釈したか

- ①与えられた作品に触発されて、自分の経験との対比や意見や予測にまで発展しているか
- ②与えられた作品を分析できているか
- ③与えられた作品の作者が作品で意図したことを多面的に論じているか
- ④自分の考えを自分で再吟味しているか

また、解答用紙の1枚目には、学習者はレポート作成のプロセスで用いた学習形態に印をつける。この印は複数でもよい。

☐ チェック・ポイント

☐ 授業

☐ 宿題として

- ☐ 教師からのフィードバックを得て、それも参考にした
- ☐ 授業中に討論した
- ☐ 自分ひとりでリサーチした
- ☐ クラスメートからのフィードバックが得られ、それを参考にした
- ☐ 下書きをそのままタイプした
- ☐ 書き直した
- ☐ その他の条件がある

Wolf は「ペースセッター・ポートフォリオ」の評点として、以下の5段階のルブリック（ポートフォリオにつける言葉による評点のこと。序列意識を生徒になるべく与えないように励ましの内容が多い。）を考案した。

- 初歩的 (Beginning)
- 発芽的 (Developing)
- 有望 (Promising)
- 達成的 (Accomplished)
- 模範的 (Exemplary)

### 3. 欧米の国語教育（第一言語）におけるポートフォリオ

Grabe and Kaplan (1996) によれば、ニューヨーク州立大学 Stonybrook 校 (SUNY) における Elbow and Belanoff (1986, 1991) のポートフォリオの事例研究が、上級レベルのライティングにおいてポートフォリオを使用した例として最もよく知られている。SUNY における新入生対象の作文プログラムでは、学習者は自分の作文をすべてポートフォリオに収集し、合格点を取るために最低 C の評価を受けなければならない。なお、各学習者のポートフォリオは評価訓練を受けた担任教師 1 名と別の教師もう 1 名によって評価される他に、外部からの評価者からも C 以上の評価を受けなければならない。各学習者のポートフォリオの内容は①修正されたエッセー 3 編、②授業中に書いたエッセー 1 編、③カバー・シートである。このうち①の 3 編のエッセーとは、①物語風、叙述的、表現力に富むエッセー、②学術的エッセー、③他のエッセーを分析、批評したエッセーになっている。

同プログラムの問題点として、①教師の作文を評価する際の負担が大きい、②学習者はカンニングをする機会が増える可能性がある、③繰り返し修正が行われることがシステムとして甘くなる、ことがあげられている。一方、同プログラムの長所として、①学習者が書く過程を真剣に捉えるようになる、②オーディエンス（読み手）を現実的に考慮するようになる、③自分の書く範囲が広がり、この広がりについて内省を行うようになる、④同プログラム内で書いたもので評価される、ことが指摘されている。

SUNY 式モデルとほぼ同様のプログラムを実施している大学として、ニューヨーク市立大学、クリストファー・ニューポート大学（ヴァージニア州）、カンサス州立大学、ミシガン大学、ノーザン・アリゾナ大学、オハイオ・マイアミ大学などがある。

#### 4. 国内の国語教育におけるポートフォリオ

ここで国内の国語教育におけるポートフォリオ利用の研究に目を転ずると、その研究の数は必ずしも多いとはいえない。香川（2001）は国語科においては研究レベルの実践が行われていないことを指摘している。しかし、最近いくつかの教育実践レベルにおける実践例が散見されるようになった。

安藤（2001）は、福井県森目小学校の斎藤の実践を紹介している。斎藤は小学校高学年の児童を対象に（対象人数は言及がないため不明）、3学期にそれまでの学習や行事で特に思い出になったことを児童に作文させ、それを福井大学の作文アドバイザーと電子メールで交換しながら、よりよい作文にしあげていくという実践を行った。この実践において、斎藤は学習物すべてをファイルに収めるワーキング・ポートフォリオを採用している。

他にも横浜国立大学附属中学校の岩間による実践がある。この実践は中学2年生が対象であるが（対象人数は言及がないため不明）、全6時間計画で、1年間の国語学習を生徒一人一人が振り返り、自分の学習過程を再構成し自分の成長を振り返ることを目的としている。学習活動は、1年間の「単元ノート」を解体して新たに準備したA4版のクリアファイルにまとめ直すというものであった。岩間によればここでの単元ノートとは、ある単元の学習の際、ノートとして使用した単元シートや配布資料、自分で収集した資料などを、単元の終わりにひとつにまとめたものである。

また、豊田（2001）は奈良県斑鳩東小学校において4年生（対象者数は言及がないため不明）を対象に「カブトガニを守る・キョウリウウをさぐる」という説明文教材において全18時間計画でポートフォリオを使用した。この実践では、これまで児童が使用してきたノートとポートフォリオとの違いを考えることから始まり、学年で共同購入させた日常で使用するノートを活用した。板書したことを児童が写していくノートではなく、児童が自分がわかったことを書き留め、残していくノートを目指した。実際には学習過程で使用した「ワークシートA・B・C」やインターネットから入手した資料を生徒はノートに貼付した。さらに豊田は一人一人が読みとったことをノートに記録し、それをお互いに出し合うことで全体のものにしていき、一人では読みとれなかったことにも気づいていけることを目指した。その結果、児童は学習の最後に要旨をまとめるとき、日頃書くことが苦手な児童も自分のことばで書くことに抵抗なく取り組めたことが報告されている。

加えて、京野（2001）は秋田大学教育文化学部附属小学校の6年生（対象者数は言及がないため不明）を対象に、全13時間計画の実践を行った。ここでの学習の目標は、童謡詩から想像したり、自分、家族、作者とのかかわりなどについて調べたりすることを通して、再発見した詩への思いが聞き手に伝わるように表現しようとするのであった。この実践で用いられたのはノート1冊だけであったが、児童はこのノート1冊を通して、過去の学習材料や現在の自分と語り合い、またその経過を振り返ることによって明日の自分と語り合うことを期待された。児童は、ノートに調べたり思考を巡らした軌跡のすべてと、それぞれの時間の成果と課題を書き込み、教師はその都度目を通してコメントをした。

さらに吉田（2001）は、茨城県竹園東小学校5年生（対象者数は言及がないため不明）を対象に、国語の朗読学習における、デジタルポートフォリオ評価を実践した。この実践では学期

に1度朗読学習を行い、記録と評価（自己評価、相互評価で役立ったもの）をコンピュータに残した。学年の最後に、1学期から3学期までのそれぞれの朗読を何回も児童は聞いて、評価を見直した。児童は1年間の自分の進歩や変化を評価し、自分の朗読の良くなった部分に自分で気づいて評価できるようになった。従来の国語における朗読学習の評価は、ノートや自己評価用紙及びカセットテープやビデオテープに記録し、比較していた。しかし、それらを一緒にすることが煩瑣で、実施が難しい面があった。デジタルポートフォリオ評価では、コンピュータ上に記録を残すため、ボタンをクリックするだけで、必要な朗読の動画や評価を取り出せることから、比較が容易になっている。

また、栃木県定時制工業高校での田部井（2001）による実践がある。この実践の対象者は高校1年生7名であるが、ワーキング・ポートフォリオやショーケース・ポートフォリオを用いて短歌の鑑賞から創作、プレゼンテーションまでを扱い、学習者の主体的学習姿勢を育成しようとしたものである。

最後に香川県満濃中学校における香川（2002）による実践がある。中学1年生134名を対象とし、全11時間で詩の創作を中心とした単元「君も詩人だ！」を組み、ポートフォリオを取り入れた実践を行った。この実践には授業に詩人を招いたり、カンファレンスも実施している。この実践には、小田（1999）が紹介しているハーヴァード大学のプロジェクト・ゼロが考案したコンパクトな総合学習のモデルケースの影響があるのかもしれない。

上記の実践例のうち斎藤による実践例以外は、児童や生徒数名のノートの一部が具体例として紹介されているが、教授者の主観的既述のみが示されているという共通点がある。また、客観的なデータが提示されていないことも共通している。また、実践例によっては、ポートフォリオに必要であるセクションやコミュニケーションがないという問題点がみられる。

ただし、上記の実践例のうち、田部井（2001）や香川（2002）による実践例ではカンファレンスが実施されている。この点でこの2つの実践例はポートフォリオの特徴をより明確に備えた実践であると考えられる。

## 5. 国内の総合的学習での国語的ポートフォリオ学習実施の可能性

小田（2000）は、国語において、書く力はポートフォリオ学習の価値が最も発揮される分野であるとしている。ただし、ただの雑多ファイルになってしまう可能性があるのも、きちんとした評価基準が必要である。そのため、学期あるいは学年を通して説明文、エッセー、詩、物語、報告文書、ノンフィクションなど各ジャンルの作品のうち、学習者が学期あるいは学年の始めに書いた作品と、生徒自身が選んだ「自分が一番気に入っている作品」との変化を軸にして、教師がコメントをつけることが望ましいのではないかと、述べている。ここで事実中心の解説文を例にとると、はじめは単なる記述であったものに自分なりの「意味づけ」や「気づき」が入ることが想定できるし、また最初は根拠のない印象批評を書いていた学習者でも、根拠を綿密に調査し論理の明快さを備えた文章が書けるようになることも考えられる。そうした学習者の変化を示す文章をメモ、下書きも含めてポートフォリオに収集する。その際、学習者の身の丈に合ったテーマを選択するのが重要であると指摘した上で、小田は変化を表す軸として、次の10点をあげている。

①「意味づけ」が書かれている。

- ②ひとつの見方だけではなく、複数の見方を論評している。
- ③比喩が的確に用いられている。
- ④視覚的なイメージが豊かである。
- ⑤言葉の音の響きが考えられている。
- ⑥あるテーマの賛否を公平に見ている。
- ⑦自分の論拠を立てるためのデータをよく調べてある。
- ⑧自分の経験を述べる文章で、具体例が的確に選択され、叙述されている。
- ⑨数字やデータを用いて論が展開されている。
- ⑩後味のよいエピソードを用いたエッセイとなっている。

小田（2000）は、日本でのポートフォリオ学習は、主に「総合的な学習の時間」で採用されることになるだろうと述べている。さらに国語的な単元として「総合的な学習の時間」に位置づけると「コミュニケーション的総合学習」とも言うべき次のような作業が可能であろうとして、10点の作業をあげている。

- ①ノンフィクションを書く
- ②エッセイを書く
- ③詩を書く
- ④音楽評を書く
- ⑤美術評を書く
- ⑥短編を書く
- ⑦旅行記を書く
- ⑧商品説明文を書く
- ⑨マニュアルを書く
- ⑩クラス通信、校内新聞などを書く

さらにこのポートフォリオ学習は手間がかかるため、ポートフォリオに収録する作品をあらかじめ決めておくことが推奨されているが、収録するものの例として、①詩、②エッセイ、③短い物語、④意見、⑤説明文、⑥事務的な文章の6種類があげられている。

最後に、ポートフォリオ学習の実施期間が、学期なのか学年なのかが重要であると述べられているが、小田（2000）は、最初は学期完結型にして、校内でノウハウを蓄積していくことを薦めている。

国語的内容をポートフォリオ学習をとおして総合的な学習の時間で扱っていく可能性として、小田（1999）は、国語ばかりではなく他の教科も射程に入れながら、レポート・小論文評点の実例として次の4点を紹介している。

- ①調べ学習をしたあと自分の考えが述べられているか。
- ②調べ学習でどのようなことが理解できたかを述べられているか。
- ③（文学作品のレポートの場合）作中人物のキャラクターの特色を分析できているか。
- ④（ブック・レポートの場合）興味をもった点は何か。それはなぜか、が述べられているか。

以上のように、小田（2000）が指摘するように、日本でのポートフォリオ学習は、主に「総合的な学習の時間」で採用されることになると思われる。筆者は小田がさらに報告しているよう

に、「総合的な学習の時間」を国語的な単位として位置づける、いわば「コミュニケーション的総合学習」に今後取り組んでいく予定である。

### 引用・参考文献

- Ando, T. 安藤輝次 2001. 「国語ポートフォリオの基礎理論」 月刊国語教育 7月号 16～19頁
- Cohen, A.D. 1994. *Assessing language ability in the classroom*. (2nd ed.). Heinle and Heinle.
- Gearhart, M., Herman, J., Baker, E.L. and Whittkaer, A. K. 1992. *Writing portfolios at the elementary level: A study of methods for writing assessment*. (CSE Technical Report 337). University of California, Center for Research on Evaluation, Standards, and Student Testing.
- Genesee, F., and Upshur, J.A. 1996. Portfolio and conference. *In Classroom-based evaluation in second language education* (98-117). Cambridge University Press.
- Grabe, W., and Kaplan, R.B. 1996. Responding to writing and writing assessment. *Theory and practice of writing*. (337-421). Addison Wesley Longman.
- Iwama, M. 岩間正則 2001. 「ポートフォリオの導入と意欲を重視した指導」 月刊国語教育 7月号 32～35頁
- Kagawa, N. 香川尚子 2001. 「国語科単元学習における評価の研究ーポートフォリオ評価の実践と分析ー」 香川大学大学院教育学研究科修士論文
- Koretz, D., Stecher, B., Klein, S., and McCaffrey, D. 1994a. *The evolution of portfolio program: The impact and quality of the Vermont program in its second year (1992-93)*. (CSE Technical Report 385). University of California, Center for Research on Evaluation Standards, and Student Testing.
- Koretz, D., Stecher, B., Klein, S., and McCaffrey, D. 1994b. The Vermont portfolio assessment program: Findings and implications. *Educational Measurement: Issues and Practice*, Fall, 5-16.
- Kyono, M. 京野真樹 2001. 「ノートを基にした『語り合い』が自分を変える童謡詩の学習」 基礎からわかるポートフォリオの つくり方・すすめ方(佐藤 真編)東洋館出版社. 30～38.
- LeMahieu, P.G., Gitomer, D.H., and Eresh, J.T. 1995. Portfolios in large-scale assessment: Difficult but not impossible. *Educational Measurement: Issues and practice*, Fall, 11-28.
- Linn, R.L., and Gronlund, N.E. 2000. *Measurement and assessment in teaching (Eighth Ed.)*. Prentice-Hall.
- Mineishi, M. 峯石 緑 2001. 「大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究」 広島大学大学院博士論文
- Murakawa, M. 村川雅弘 2001. 「『生きる力』を育むポートフォリオ評価」 ぎょうせい
- Oda, K. 小田勝己 1999. 「総合的学習に適したポートフォリオ学習と評価」 学事出版
- \_\_\_\_\_ 2000. 「子どもの成長を促すポートフォリオがよくわかる本」 学事出版
- \_\_\_\_\_ 2001. 「総合的な学習に活かすポートフォリオで学力形成」 学事出版
- Ogi, K. 尾木和秀 2001. 「ポートフォリオ評価に注目するのはなぜか」 月刊国語教育 7月

号 12～15頁

- Paulson, F.L., Paulson, P.R., and Meyer, C.A. 1991. What makes a portfolio a portfolio? *Educational Leadership*, 48, February, 60～63.
- Tabei, S. 田部井聡. 2001. 「『学び』を「伝え合う」ポートフォリオの「試み」」月刊 国語教育 7月号 36～39頁
- Teranishi, K. 寺西和子. 2001. 総合学習の評価—ポートフォリオ評価の可能性—. 明治図書.
- Toyota, N. 豊田奈和子. 2001. 「カブトガニを守る・キョウリュウをさぐる—説明文教材における試み—」ポートフォリオ評価による通知票・指導要録の書き方（佐藤 真編）学事出版 98～125頁
- Yoden, Y. 余田義彦（編）. 2001. 生きる力を育てるデジタルポートフォリオ学習と評価 高陵社書店.
- Yoshida, H. 吉田 浩. 2001. 「デジタルポートフォリオでしかないポートフォリオ—国語科「朗読学習」におけるデジタルポートフォリオ評価—」生きる力を育てるデジタルポートフォリオ学習と評価（余田義彦編）高陵社書店. 109～110頁

## On Portfolios Used in Writing of First Language Education in the U.S. and Japan

HOJO Reiko\*

### Abstract

In recent years, much attention has been paid to portfolios both as assessment and instructional tools. This article consists of five parts: 1) what are portfolios?; 2) portfolios and writing; 3) portfolios used in writing of English language in the U.S.; 4) portfolios used in writing of Japanese language in Japan, and 5) portfolios expected to be used in periods of integrated study in Japan.

This article reports that little systematic research has been conducted on portfolios in writing classes in Japan.

---

\* Division of Learning Support